

万博レガシーの社会実装へ

新事業共創プラットフォーム始動

大阪・京都・神戸の3商工会議所はこのほど、万博レガシーの具体化に向け、中小・スタートアップの新技術・サービスの社会実装を支援する「新事業共創プラットフォーム」を立ち上げる。

10月15日に第1回「コミュニティ交流会」「新規事業で新たな収益の柱を作る共創共栄の価値創造」を開催する。松山工業の鶴久森洋生社長が、企業の新規事業立案から収益化を伴走支援してきた経験から、共創共栄を実現

する新規事業の創り方を講演する。午後3〜5時、NORIBA10 umed a (大阪市北区)で。同28日には第2回「パネル懇談 万博発！新事業の実装を目指す企業の取り組み」をテーマに、万博出展を経て新技術の社会実装を目指すスパイスキューブ、プリマール、J'sudoの3社が登壇。市場化への壁や活用した支援などを紹介する。午後5時30分〜7時、CO MPASS OFFICES イノゲート大阪(同)で。同交流会では同プラットフォームの事業内容やアクセラレーションプログラムの募集概要も説明。第1回、第2回とも、名刺交換・交流会に加工

▼詳細はこちら



万博レガシー製品化第4号を手にする大商の鳥井信吾会頭(左)とマトリックスの辻義光代表取締役(右)9月18日、大商



万博「町工場リボーンチャレンジ」から製品化第4号が誕生

大阪商工会議所と大阪信用金庫が2025年大阪・関西万博「大阪ヘルスケアパビリオン」で実施したリボーンチャレンジ「身近な課題や世界のお困りごとを大阪の町工場が解決します！」の出展技術から、万博レガシー製品化第4号となる「災害時要救助者探知システム」の先行販売モデルがこのほど、発売された。

同製品は、見守りシステム向けアクティブタグで豊富な実績を持つ代表企業のマトリックス(大阪市中央区)をはじめ、旭電機化成(同東成区)、ミマモルメ(同福島区)の異業種3社が連携して開発。万博での展示を経て実証実験と改良を重ね、地震や豪雨災害時に瓦礫や土砂の下に埋もれた被災者を、電波を用いて迅速かつピンポイントに探知・特定するシステムを完成させた。単独では解決が難しい課題を異業種連携(無線・センシング技術×プラスチック成形・デザイン×見守り

【問合せ】産業・技術振

00

0944・63

のエリアを移す。同エリアが持つ自然や文化、交通など多様な資源を回廊やネットワークを意